

10/1室内例会 11/5室内例会 12/3室内例会
 10/15-16秋田駒ヶ岳雨天中止 11/27公開ハイク秦野権現山 12/17-18 望年山行三頭山

県連のスケジュール

11月		12月		1月	
1	火	遭対会議「救助要請の実際」	1	木	
2	水		2	金	
3	木		3	土	リーダ学校実技 丹沢リウチカ
4	金		4	日	リーダ学校実技
5	土		5	月	常任理事会
6	日	ハイキング実技	6	火	
7	月	常任理事会	7	水	リーダ学校机上
8	火	事務局長会議	8	木	
9	水		9	金	
10	木		10	土	
11	金		11	日	事務局長会議
12	土		12	月	
13	日		13	火	事務局長会議
14	月	事務局部会	14	水	
15	火	リーダ学校机上	15	木	教育部会
16	水		16	金	
17	木		17	土	
18	金		18	日	
19	土		19	月	事務局部会
20	日		20	火	リーダ学校机上 教育部会
21	月	ハイキング終了式	21	水	
22	火		22	木	
23	水		23	金	
24	木	教育部会	24	土	
25	金		25	日	
26	土		26	月	自然保護委員会
27	日	ファーストエイド講習会	27	火	
28	月	自然保護委員会	28	水	
29	火	遭対部会	29	木	
30	水		30	金	
			31	土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	
				金	
				土	
				日	
				月	
				火	
				水	
				木	

2005清里フェスタ全国交流集會に参加して

2005.10.3 中山 建生

9月17日より19日山梨県清里コマヴェレッジにて、妙高以来の野外での全国交流親睦集會が開かれた。途中読売ランドで開催。今回、神奈川からは39名の参加と聞いている。

どこにでもいる平凡な人たち、しかし、労山の活動に参加することに喜びと連帯を感じる人たち、そう思うと案外ここに集まった人たちは非凡な人たちなのかもしれない。さて肝心の集會はどうであったのか。私は遭難対策、会場の安全点検、駐車場の整理と一日外にいたため、また会議や次の仕事のため椎名誠さんの講演は聴かずとなった。

翌日、第一分科会「山岳会の運営について」に参加をした。当日、教育部の後藤さん、川崎ハイクの会員とともに、斎藤義孝理事長の基調報告の後、大人数のため2つの会場に分かれ、私はA会場に二人を残してB会場の参加とした。

全体の自己紹介を終えて、参加者の会員教育と会員の拡大について、大阪、長野などの経験が話された。運営に関する事柄は活動の表面に表れる矛盾や問題がなんなのかを突き止める必要がある。会員に対する教育や会員拡大をなんのためにするのか、分かったようで分からないため肝心の位置付けがないと運動は継続しないし、成果があがらない。所詮、個人の登山要求がなによりも優先されると、会のことや社会的な取り組みは後退してゆくからますます会の運営が困難になることを誰もが経験している。

かつての労山の活動を見ると、さまざまな活動が取り込まれ、これに会員が積極的に参加をしたから集団としての価値を大切に、社会的な活動の中で揉まれることにより多くの仲間が成長していった。今日の運営上の問題とはなんだろうか。例會が盛り上がらない。会の役員のための手が足りない。機関誌や会報の原稿が集まらない。リーダーになろうとしない。どこを見ても「ない。ない。ないづくしである。」と感じている。まあ、そんなことは当

然に予想したことであったが、教育をしない、約束事を守らない、好き勝手にするに至っては、組織の乱れと怠惰で無責任な状態が遭難事故を生む背景となっている。

私が参加した第一分科会は、それぞれのお国自慢から、なにか本質的なものが欠けていると気付き始めた。つまり、活動の理念や基本的な柱に該当する運動論がないため、一時はできても継続しないし、先が見えないという発言が出始めた。一定の活動を続けてきた人たちにはこうした現実が見えても、ほとんどの人たちには全国の仲間の元気な活動だけが羨ましかったり、輝いて見えるだけで、内とは違う、どうしてだろうかという困惑の表情も見え隠れする。分科会での活動報告に限ってしまえば、各地のユニークな活動から励ましを受けることになったであろう。しかし、これらの問題を掘り下げようとするなら準備が無く、基調報告をベースにした討議をしなくてはならないのに、皆の認識は別の所にあったから、基調報告と分科会の初日の報告討議は噛み合っていなかった。

労山の働き手になるためには、登山の知識と技術だけではまったく不足である。しかるに労山の理念や理想を具体化する教育、活動の取り組みから成果や反省を得る中での人間的なぶつかりを求めないかぎりは運営や活動の展望を語るはずがない。京都の田原さんが京都の登山学校で趣意書を学習して、自らが運動を組み立てる、原則や理念の具体化を見付ける行動をしていると力強く述べたことを重く受け止めた。全体の討議が進むことを期待して明日を待った。さて神奈川に戻り、10月3日神奈川県連盟常任理事会において、参加した理事からこの取り組みについて報告してもらった。全体の印象は良かったとされそれぞれの集まりや感想を報告書としてまとめることにした。この種の集會参加が若い人たちに敬遠されるのはなぜか、また若い人たちに登山が魅力的なスポーツであると訴えられないのはなぜか。後継者の育成が進まない

小田原ナーゲル

報告 春日谷

10/1光沢寺岩トレ(2)	10/8八剣山(カヤノ平-北ドブ湿原)(1)	10/14広沢寺岩トレ(1+1)	10/25足柄峠(足柄古道)(1+9)
10/1日本山岳耐久レース試走(2)	10/9-10硫黄岳(2)	10/16畦ヶ丸(2+2)	
10/2三つ峠クライミング(3)	10/9-10日本山岳耐久レース(1)	10/23クリーンハイク明神ヶ岳(17+2)	

みずなら山の会

報告 小川眞澄

計33名(男20名 女13名)平均年齢53歳

10/1幕岩(3)	根(4)	11/6茅ヶ岳	11/27ファーストエイド講習
10/7-10阿寒・摩周(3)	10/24運営委員会	11/9例会	12/4高尾山景信山(忘年山行)
10/8-9尾瀬(1他)	10/29-30集中山行みずなら祭り西丹沢	11/13丹沢奇-雨山	12/7雪崩講習会
10/8-10前穂北尾根(5)	10/30県連確保トレ(5)	11/17運営委員会	12/14例会
10/12例会	10/30広沢寺(2)	11/19-20城ヶ崎	12/17-18谷川(雪トレ)
10/15鷹取(3)	11/2-3丹沢蛭ヶ岳	11/19-20立山	
10/21-22谷川岳(3)	11/3-5男体山・女峰山	11/23雪崩講習	
10/21-23甲斐駒黒戸尾		11/26-27蓼科山	

雪重山の会

報告

深江久仁子

計20名(男14:女6)平均39歳

9/3-4奥多摩救助隊トレ(1)	9/10滝小山(1)	穂(1他1)	9/26-27三つ峠(3)
9/4大倉-塔の岳	9/11鷹取山(4)	9/17-19裏銀座,烏帽子-双六-新穂高(1他1)	9/28例会
9/8例会	9/15-16鳳凰山(1)	9/23-24吾妻連峰(1)	10/1-2 会山行・幕岩
	9/17-19岳沢-前穂-奥		

川崎勤労者山岳会

報告:佐々木利江

計58名(男36 女22)平均40歳

10/1-2 登)岩・三つ峠(22)	10/22-23 奥秩父・瑞牆山-金峰山(6)	11/9 登)机上・気象
10/7-10 朝日連峰・縦走(5)	10/22 丹沢・三の塔植樹(3)	11/16 運営委員会
10/8-10 小川山(4)	その他12の山行	11/30 例会
10/8-10 前穂-奥穂縦走(3)	11/13(日)鷹取山・搬出ト	
10/22-23 烏帽子岩南稜(6)		

川崎柴笛クラブ

報告者:篠原

計23名

(男15:女8)

平均48歳

10月19日例会	11月16日例会	
----------	----------	--

やま++

報告 柴田勇作

計10名(男7:女3)平均47歳

10/1 新人勉強会・丹沢山岳センター(9+2)	山のいろいろ(9+2)	11/10 秩父・両神山
10/2 新人教育山行・丹沢・烏尾山(7+2)	10/16 飛騨・恵那山(1+1)	11/13 奥多摩・鹿倉山
10/4-5 東北・岩木山・八甲田・八幡平(1+1)	10/23 御坂・十二ガ岳(3+2)	11/19-20 山梨・蛾ヶ岳
10/9 会津・三つ岩岳(3)	10/26 例会・百合丘(9+2)	11/27 県連ファースト エイド講習会
10/10-11 東北・焼石連峰(1)	10/29-30 八ヶ岳・稲子岳(4)	11/30 例会・百合丘(勉強・セルフレスキュー)
10/12 勉強会・百合丘(読図)	10/29-30 安倍奥・山伏(4)	
	11/3 中央線・お坊ガ岳	
	11/6 RCT・鷹取山	
	11/9 勉強会・百合丘(冬の天気)	

藤沢山の会

報告 清水守

計98名(男41:女57)平均59歳

10/1-3 霞沢山(2)	10/22 源次郎沢(10)	他15山行	写真の展示とプローチ作り
10/12-13 男体山(9)	10/22 大倉ポッカ(3)	11/1 尾白川	12/17-18 中川温泉集中・忘年山行
10/15-16 大倉ポッカ(10)	10/23 大山クリーンハイク(40)	11/5 塔ノ岳	
10/15-16 北八ヶ岳(7)	10/25 行者岳(4)	11/12-13 モソミ沢	
		11/12-13 公民館祭り・	

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

横浜わらび山の会 報告：野尻邦夫 計18名 男6女12

8/30-9/2徳本峠と乗鞍岳(3)	(4)	9/23-25北八ヶ岳縞枯山・硫黄岳(2)	10/23-24鼻曲山
9/3玉原湿原(6)	9/10-11草津白根山(3)	山・硫黄岳(2)	10/30雁が腹摺山
9/4相馬山(6)	9/11三ツ峠(8)	9/ ニューゼaland	11/6-7甲州高尾山
9/4陣馬山(2)	9/17-19甲斐駒ヶ岳・仙丈岳(2)	フッカパレー他(2)	11/17筑波山
9/8-11岩木山・八甲田	9/18塔ノ岳-丹沢山(1)	10/2乾徳山(8)	
		10/9須雲山	

川崎ハイキングクラブ 報告 樋渡輝彦 計101名(男46 女55) 平均57歳

9/17榛名山(3)	ハイク(11)	10/28鹿倉山	育山行
9/17-19芳山フェスタ(8)	10/8-9磐梯山(26)	10/29-30七面山	11/16大室山
9/18-19富士山(4)	10/12運営委員会	10/30武蔵五日市・陶芸山行	11/20金撞堂山
9/18岩殿山(8)	10/16玉川上水・ウォーキング	11/5牛寝通り	11/20天園
9/21-22会津駒ヶ岳(5)	10/21-22国師岳-金峰山	11/5-6酉谷山	11/20権現山
9/22-25裏剣(6)	10/22-23女峰山	11/6日の出山・例会山行	11/27長者ヶ岳・公開ハイク
9/24-25平ヶ岳(10)	10/26例会	11/9運営委員会	11/30例会
9/28例会(40)	10/27-29尾瀬ヶ原	11/13鷹取山・新人教	
10/2経ヶ岳・クリーン			

横浜こぶしの会 報告 田辺美由紀 計25名(男15人 女10人)

9/3-4遭対部訓練山行(1)	1外1)	9/30-10/2硫黄岳(1)	時山(1)
9/4塔ノ岳(3)	9/16-18大行沢(3)	10/7-8慰霊登山黒戸尾根(会員3外4)雨の為中止	10/21-23きこ狩り(4)
9/8例会	9/19塔ノ岳	10/15夜叉神峠(1)	10/23箱根明神(1)
9/10こぶし祭キャンプ(寄にて18)	9/22-25大深沢(4)	10/15岩トレ雨天のため室内ジム(6)	10/30岩トレ幕岩
9/11鍋割(5)滝郷沢(3)	9/23-24雲取山(3)	10/21明星、明神、金	10/30鳩ノ巣
9/13-15立山三山(会員)	9/25大菩薩峠(会員1外2)		

相模勤労者山岳会 報告 藤田耕市 計40名(男25:女15) 平均51.8歳

10/1-2小川山(3)	駒ヶ岳(1)	10/12第1例会	11/5幕岩(岩トレ)
10/1-2編笠山(3)	10/7-11白木峰/金剛堂山/人形山/医王山(2)	10/19-21雨飾山(3)	11/6確保、搬出トレ(ミツ岩)
10/2キ-ル沢・弁沢下降(2)	10/8-9稲子湯-しらび	10/19第2例会	11/9第1例会
10/7-10裏剣-黒部下の廊下(2)	そ小屋-麦草峠(1)	10/22-23会津磐梯山/西吾妻山(4)	11/20ホッパレ(大山)
10/7-10針の木岳/針の木谷下降(1)	10/8-10鶴ヶ鳥屋山-御坂山-鍵掛峠(2)	10/22-23読図山行(丹沢山)(4)	11/24第2例会
10/7-10八海山-中ノ岳-	10/8-10前穂高岳-奥穂高岳-涸沢(1)	10/22-23弁天岩	
		10/22-23三ツ峠(県連)	

横浜ハイキングクラブ 報告 池上準子 計59名(男21:女38) 平均59歳

9/15夜-19前穂高・奥穂高・北穂高(4)	10/2奥多摩三頭山(12)	ろし(1)	11/13大山北尾根
9/17-19清里美し森芳山フェスタ(7)	10/6-7蓬峠(5)	10/22-23唐松尾根・笠取・雁坂(9)	11/26-27望年山行(箱根)
9/24-26越後駒ヶ岳・平が岳(中止)	10/8-10鳳凰三山(5)	10/29足和田山	
	10/14-16仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳(中止)	11/3黒岳	
	10/15見晴茶屋廃材お	11/5三ツ峠	

なかで共通した不安を感じたが、これを切り開く展望が望めないのはなぜか。

ある理事は若い人たちの要求はフリークライミングにあるという。スポーツ性と格好のよさだとも言う。では現在の山岳会にこの魅力はないのである。いくつか例外を除くとほとんどないと言って良い。彼らは今回の集会所も老人会の集まりみたいだと見ていた。

懐かしさと郷愁に浸れるのは年寄りの特権ではあるが、若い人たちからすればとても中に入っていけないという感じを持っていた。ではフリーの魅力だけでは登山運動が起せるのだろうかという当然の疑問も浮かぶ。この議論は双方からの妥協により中間的な目標で成り立つものかどうか、またどちらかに振れることにより打開するものなのかもひとつはつきりしない。しかし、今では議論をするより実践して試したほうが良いと考える。この点において山岳会が掲げる目標や基本理念が鍵となるであろう。ただ単に壁を登りたいでは山岳会という組織はやがて個人の足枷になって、他の会員から励ましを受け、自らが連帯の主人公となることはない。たいていは自分が登れるようになると会をやめるか、息の合う仲間と同人組織を作るようになり会を離れ、会の働き手にならないからである。分かりやすく言えば、やるだけ無駄というあきらめが入り込んでいる。現実を見ると、これは反面の真理でここを打ち破っている会

もあるから、よく周りを見てから答えを出すことにしよう。こうした集会や企画に若い人たちの要求や情熱が反映されなければ、いつまでも従来型の集いに落ちてしまう。どこかで思い切りが必要である。ちょうど10月から11月は大学祭があり表の看板やスローガンを見る機会があったから、多少とも若い人たちの要求や意識が分かるかと思い、立ち止まって読んでみる。が、私が古いのだろうか。何を要求しているのか、訴えているのか文面からは週刊誌の中吊り広告のようで感覚的で汲み取れなかった。私たちが若い人たちに任せたいとするものは何か。こちらのスタンスが決まっていらないように思う。楽しいこと、愉快なことでは抽象すぎているが、具体的な中身を拾いあげてゆくとお互い共通認識が生まれるかもしれない。

どうもこの種の問題の根っ子は表面の枯れ枝や樹木の勢いの無さではなく、地中の養分、空中の大気、私たちが囲んでいる環境そのものを見直さなくてはならないのだろう。だから樹木の成長を阻害している原因を取り除くと同時に環境の改善をしなくてはならない。しかし、だれもこのことが面倒でたいへんなことを知っているから手を出そうとしない。私たちはこの悪循環の中にある。それでも、この集会在楽しかったとする人たちの感想がどんなものであるか知った上で改めて組織の若返りを提案したいと思う。以上



労山フェスタ清里集会2005
第3分科会「山行活動 私の登り方」に参加して

「カモの会」所属・竹田幸司

報告された3つの山行活動が共に刺激的で、まだまだ魅力的な山行や未開拓のエリアがあるものだと思いましたが、我が身の山に対する積極性の薄れが身にしました。やはり山岳活動は現役で

登っている方の発言力は大きく、昔は・・・と始める人の話は誰も聞かないことを痛感しました。

下記思うままに感じた事を書いてみます。

「秘境カムチャッカの山」 海野一彦氏（静岡：ナチュラルマウンテニアリング）

カムチャッカの山は友人も数年前に訪れており、わざわざそんなところに行かなくても他に登る山はまだあるだろうと提言したことを思い出しましたが、今回の報告を伺い私も行きたくになりました。ヘリコプターが飛ばな

かったので山頂をあきらめたとの報告も聞いていましたが、このエリアの交通手段を詳しく伺い納得した次第です。緯度の高い場所の山は天候の判断が難しそうです。

「宮崎の岩場」阿万忠司氏（宮崎：西都山岳会）

友人も何度か通い大変楽しいクライミングが出来る場所と絶賛していましたが、やっと魅力が理解できました。昨今流行のフリークライミングについていけばフリークライミングのメッカ」としか写っておりませんでした。昔のアルパインスタイルでの岩登りに魅力を感じる者として違和感がありましたが、発表者の阿万さんがグレードは？級でないと判らない・昔の人工ルートは今のフリークライマーはあまり登らない。などの発言があり私が勝手にイメージしていた岩場とは大いに異なりアルパインの世界の岩場である事が理解できました。

ミの最上段に乗っても上のボルトに届かない人工登攀を懐かしく思い起こさせてくれました。

今回の労山フェスタへの参加動機が年々劣る体力を防ぐにはなにか良いトレーニング方法はないものかと同年代の方々から意見を伺うつもりでした。しかし阿万さんの年齢を伺い現役クライマーの姿を目の当りにすると、トレーニング云々ではなく私も負けては行けないと大変良い刺激になりました。比叡山の岩場では女性のクライマーが意気揚揚と登攀する姿も美しく、なんといっても紹介のプレゼンテーションが休日の朝に流れる「気軽に行ける宮崎のクライミングスポット」的な感じでプロの映像作家ではないかと思いました。鹿川庵・麓屋ともに数日を過ごしたい場所になりました。

今はフラットシューズも年に何回かしか履かない私でも岩肌に触れる魅力はなんともいえないものがあり、乾いた岩をダイナミックに登攀する喜びは他に言い表せません。アブ

「登山の面白さと黒部・剣での冬期登攀」 伊藤達夫氏（京都：てつじん山の会）

伊藤さんが話されていた、「山域を知り・山域の弱点を知り・なおかつ天気次第である」山行の難しさが理解できます。天気を上手く掴む事の大切さを強調され、氏の登攀された半分でもいや1/4でも登攀できればいいなど勝手に思い、いやいや冬の剣の山頂に立つことだけでも困難である事を改めて思い起こしました。

上に繋がるのかなとの思いがあります。我々は国家を背負って登山のレベルアップを図っているものではなく、自分の忙しい時間を割き、自分の限られたお金で行く登山であり。登山人口の減少は望みはすれ危惧する必要性は無いと思います。登山人口の減少は山の自然回帰に繋がるのではないのでしょうか。余りにも整備された登山道はパネルディスクッションで区別された「登山客」が増え自然破壊が助長され、「登山者」の減少で登山モラルの低下に繋がるのではとそちらが心配になりました。例えていえば台風の被害で登山道

10年後20年後の登山界を心配する話題も上がっていましたが、登山人口の減少について危惧されている方の発言に対し、登山人口が増え組織・所帯が大きくなる事が登山の質の向

自然保護委員会企画丹沢ウオッチング
湘南平ウオーキングと平塚市博物館見学

12月3日(土) 雨天中止。

大磯駅10時10分出発。弁当持参。

問い合わせ先 = 山田恵二 電話0463-24-0503

携帯090-4747-1019

見晴茶屋廃材おろし報告



10月15日(土)16日(日)丹沢大倉尾根「見晴茶屋」の廃材おろしをやりました。

参加者は18名(内訳・藤沢山の会10名、相模岩山3名、横浜ハイキングクラブ1名、むらやま山の会1名、新婦人チューリップ班2名、小田原ナーゲル山の会1名)です。

見晴茶屋は5月のクリーンハイクの際、前夜祭に使わせてもらった山小屋です。

小屋を改修しており、古い家屋の廃材(主にトタン)を大倉まで下ろしました。(推定量約20

0キロ) 15日に2往復。16日は1往復です。

力の余っている人が、25キロ入りのセメントを運び上げました。計7袋175キロです。

土曜の夜は山の歌とかで盛り上がりました。見晴茶屋は大倉から徒歩50分。

神奈川でも「労山フェスティバル神奈川版」を見晴茶屋を使ってやりたいねの声が出ました。

(小田原・山田恵二)

遭対部からのお知らせ

雪上搬出トレーニングの開催

開催日程 平成18年1月21~22日

場所 谷川岳周辺

概要 遭難者の捜索と救護、搬出

詳細は次月号にてお知らせしますが、救助隊員及び参加希望者にお知らせします。

- ている。それらのノウハウをマニュアル化する。
- (3) 上記の情報を文書化し、各会に配布。そして電子文書を県連ホームページに掲載し、即座に取得可能とする

質問 警察に連絡か？ 県連に連絡か？

- ・ どちらにも「一報」を。県連からは緊急時についての相談ができ、警察からは、地元の情報が得られる。
- ・ エリアが長野、富山、岐阜、なら、警察の力が強い。東北などは弱い。（消防や地元旅館オーナーなどの、寄せ集め）。警察や遭対協と交渉できる人材が必要
- ・ 緊急にヘリを飛ばしたい時は「警察に要請」。長期化して人海戦術が必要なら「県連救助隊に要請」。それは現地での各会代表者の判断に任せれば良く、県連救助隊ではその判断について規定などは定めない。ただし県連救助隊に「要請」したなら、以後の救助活動は県連救助隊の指揮下に入ってもらい、現地対応の代表者は自動的に救助隊長に切り替わり、それを現地の警察や遭対協の代表者に認知してもらう必要があると思います。

3. 救助隊出動後の行動について

- ・ 基本的には「県連救助隊出動マニュアル」を参照のこと。

会でやるべきこと

- ・ 救助は県連に要請するが、会のやることはとても多い（事後処理、家族対応、お礼、などなど）
- ・ 基本的な遭対活動は会で行い、県連は捜索活動のヘルプを行うというスタンス。
- ・ まず会で良く話し合ってから県に要請。（出前を頼むような感覚で安易に救助要請はしない）
- ・ 家族対応については当該会が最初（会の初動：現地へ様子を見に行く）からきちっと対応をする。必要なら県連に相談してもらえれば、アドバイスはします。



4. まとめ

- (1) 各会の遭対担当者が、緊急時に「何を」「誰に」「どのようなタイミングで（警察、県連のどちらに相談するのか？なども含めて）」「どのような手段で」連絡すれば良いのか。連絡後は、どのように行動するのか、情報が不足していることが判明しました。
- (2) 上記のことを解決するための方針として、緊急時対応マニュアルの整備が必要です。「県連救助隊・救助要請マニュアル」「県連救助隊・出動マニュアル」「県連救助隊・捜索救助要請規定」
- (3) 県連救助隊が「どんな組織で」「何ができて」「何ができないのか」、「警察の捜索隊との違いは何なのか」などの情報が各会の担当者に伝わっていないと、担当者もどのように県連に相談してよいか迷う。（「救助隊・通信」などの情報誌の発行が必要か？）
- (4) 救助活動についてのノウハウ情報の共有化の必要性
 > 基本は「救助隊・出動マニュアル」に従うが、逐次整備、情報の更新、刷新が必要
 > それ以外にも、中山氏、入木田氏に代表されるような、経験豊富なベテランのノウハウが不可欠。それらノウハウを文書化し遭対部員、救助隊員、各会と情報共有する必要あり。
- (5) MLなどを活用して、県連遭対部、救助隊、事務局、各会担当者との密な情報交換の必要あり。
- (6) (2)(3)(4)などの重要な資料は、電子化して、県連HPを活用し、各会の担当者が最新の資料を緊急時にはいつでもダウンロード可能とする。（個人情報保護やセキュリティの問題をクリアしつつ）

になりました。例えていえば台風の被害で登山道を塞いだ倒木を自分の力で乗り越える登山者を見て引き返す登山客がいても不思議ではないと思います。

昨日登った富士山で登山客の多さにより（夏・冬共）登山モラルの低下が山小屋意識のモラル低下にも繋がっていることに驚きました。（山を観光地化させたくない強く思いました）

登山の形態もさまざままでフリークライミング・ウォールクライミング・室内登攀など多

くの言葉で表現される活動がなされています。会社帰りにクライミングジムで汗を流すこともスポーツ登山のひとつになっています。

自分には理解できない活動も多くありますが、己の理解できる登山活動を今後も続けていこうと勇気つけられた労山フェスタでした。お世話いただいた地元山岳会会員の皆様、連盟各委員の皆様に御礼申し上げます。

第17回 海外登山集会 実施要綱

主催 日本勤労者山岳連盟 海外委員会
 主管 東京都勤労者山岳連盟

2005年の海外登山集会を下記のとおり実施いたします。
 記念講演は今春、日中合同女子チョモランマ登山隊の隊長を務められた、橋本しおりさんをお願いしました。
 会場は東京のオリンピック記念青少年総合センターです。
 海外登山に関心を持つ多くの登山会員の参加があることを期待しています。

日 時	2005年11月19日（土）13時～20日（日）12時
内 容	記念講演 橋本しおりさん （医師 2005年 日中合同女子登山隊隊長） 演題 「高所医学から見た高所登山」 登山隊報告 全国連盟ガッシャーブルム1峰隊他
会 場	オリンピック記念青少年総合センター 東京都渋谷区神園町 TEL 03-3467-7201
交 通	小田急小田原線「参宮橋」駅から徒歩5分 （同線「新宿」から二つ目） 地下鉄千代田線「代々木公園」駅から徒歩15分
費 用	宿泊付参加 8,000円（宿泊・夕食・朝食・交流会費含む） 日帰り参加 1,000円（1日参加も2日参加も同額）
申し込み	全国連盟海外委員会まで、 所属地方連盟、所属団体名、氏名連絡先、宿泊の有無 をご連絡下さい。

● 遭難対策活動に対するご協力のお願い ●

2005.11.01 神奈川県連・遭難対策部

遭難緊急時対応会議に各会から代表の方々に御出席いただき、お忙しいところ本当にありがとうございました。

既にご存じの通り神奈川県連では「遭難対策部」から「救助隊」を分離し、それぞれ独立した組織として運営してゆこうとしています。

◆ 遭難対策部から救助隊を分離し独立運営する理由と目的 ◆

- (1) 「救助隊」は遭難時に活動するための組織、「遭難対策部」は遭難を未然に防ぐために活動するための組織、という活動の主旨の違いが明確になってきました。
- (2) 近年の遭難事故増加により、現在の遭難対策部のボリュームが増加し、現状のスタッフでは必要とされる任務や業務を処理しきれなくなってきました。
- (3) 近年のクライミングおよびレスキュー技術の進歩により、救助隊は集中して技術の習得や普及を専門的に行う必要が生じてきました。
- (4) 一方、救助隊分離後の遭難対策部においては、「事故の分析」「事故未然防止のための対策」といった本来の活動をしてゆきます。具体的には「登山者の心理」「地形図などの事前準備」「日常の体力健康維持」といった技術以前の側面に注目した講習活動などです。

上記のような様々な活動を行うためには、現状でも少ないスタッフを大幅に増強する必要に迫られています。そこで、下記の内容を会員のみなさんにお伝えいただきたいのです。

■ 県連・遭難対策部の活動へのご協力のお願い ■

- (1) 各会から遭難対策部の運営をお手伝いいただくスタッフの派遣を是非ともお願いします。
- (2) 遭難対策部員は必ずしも専門的な知識を持つ人間だけが必要ではありません。むしろ事務処理などの活動のバックアップを行う人材も含め、層を厚くすることが重要です。
- (3) ハイキングクラブなのでクライミングはしないから、という理由で人材派遣に消極的な会が一部あるようですが、実際に事故が増加しているのは通常の登山なのです。
- (4) 同様に「人数が少ないから」という理由もありますが、会員数の少ない会こそ、非常時には県連の力が必要になるのではないのでしょうか。ぜひ前向きにお考えください。
- (5) これは登山活動全体に当てはまりますが「登山活動に参加すると自分の山に行けなくなる」という意識があるようですが、それは間違いだと思います。100の仕事をする5人でいうと20の作業量ですが、同じ仕事を500人で行えば、0.2の作業量で済みます。登山会員で力を合わせて人材を適材適所に、任務を負荷分散してゆけば、誰も負担になることなく充実した活動を行うことができるでしょう。
- (6) 多くの会があり、多様な人材の存在する登山という組織は貴重な場です。その活動に参加するということは登山に限らず、自己の経験を深める絶好の機会だと思います。縁あってそのような組織に所属したのですから、ぜひ積極的かつポジティブな姿勢で登山活動に参加していただけることを望んでいます。

■ 以上、どうぞよろしくお願いたします。 ■

● 神奈川県連・遭難緊急時対応会議・簡易報告 ●

■ 日程：2005年11月1日（火）

■ 場所：かながわ県民活動サポートセンター

■ 司会：熊谷修治（救助隊隊長・アルパインクラブ横浜）

■ 0. はじめに

2005年夏は神奈川県連から不幸にして2件の山岳遭難死亡事故が発生させていただきました。県連救助隊も出動しましたが、十分な活動ができたとは言えません。

それらの諸問題を改善するために、今回の会議では緊急遭難時の各会および救助隊の体制を離しあうものとして企画されましたが、私を知る限りおそらく県連としては初めての試みで、その意味でとても有意義なエピソードだと思います。

このような会議は少なくとも年1回は開催するべきだと思います。

（2005.11.02 遭難対策部長代行：鳥越章夫・小田原ナゲル山の会）



■ 1. 各会における緊急時の体制の取り方について

- ・ まず当該会で体制を整えて、県連にはまず「一報」を行うこと。（※「要請」ではない）
- ・ 地元警察にも「一報」を入れる（※「要請」ではない）これは地元の情報を得るのに有利。
- ・ 正式に救助「要請」があった場合は、救助活動の主導権は県連救助隊に移行する

★「県連救助隊・救助要請規定」の存在を知らない会がほとんどであった。

（誰に要請すれば良いのか？ 要請内容はどのようにすればよいのか？）

→「事故第一報、救助隊派遣要請電話受信マニュアル」「捜索救助要請規定」をもとに連絡をしてください。（※ 今後、各会の担当者に配布予定、県連ホームページへ掲載予定）

<<< 遭難対策部としての今後の対応 >>>

- (1) 上記のような体制は、会によって様々で、体制が十分でない会も。
- (2) 各会の緊急時の体制がどのように取られているか把握する
- (3) 遭難対策部員の拡充および各会との密な情報交換、担当者の交代などの把握。
- (4) 上記に関連した重要な資料は各会の代表に配布
- (5) 将来は必要な資料を県連HPからダウンロード可能とする（※情報の共有化）

■ 2. 県連へ救助要請した後の当該会の行動

- ・ 基本的には「県連救助隊出動マニュアル」を参考にしてください。
- ・ 計画書を県連事務所への送付
- ・ 県連事務所の確認（住所、電話、地図等）
- ・ 県連事務所の外カギ保有者とその連絡先の把握
- ・ 県連との指揮系統の確認
- ・ 活動中の県連事務所への会員の詰め（副本部長1名は当該会から）
- ・ 家族対応は基本的に当該会

<<< 遭難対策部としての今後の対応 >>>

- (1) 緊急時、各会担当者が迷わないよう県連事務所の地図や道順の資料を作成し各会担当者に配布。
- (2) 遭難は普段起こらないだけに、緊急時の対応のノウハウは一部の経験豊富なベテランに頼る